

**【投資家向け】**  
**中外製薬 社長懇談会**  
**要約資料**  
**(2018年8月31日作成)**

- ・ 本補足資料には、医薬品（開発品を含む）に関する情報が含まれていますが、それらは宣伝・広告や医学的なアドバイスを目的とするものではありません。
- ・ 2018年8月27、28日に、計35名の機関投資家・証券アナリストを招き、社長懇談会を開催しました。本資料は、懇談会での説明内容を要約したものです。

すべての革新は患者さんのために



中外製薬株式会社

 ロシュグループ

### 【バイオシミラー対策について】

基本的に以下の3つの対応策を考えている。

1. より良い製品で置き換えていく
  2. 知的財産権を侵害する行為に対し、法的措置等で対処
  3. 有効性/安全性/品質の観点で、今まで構築してきた豊富なエビデンスとの相違点を訴求
- なお、当社は、原則としてバイオセიმ（オーソライズドジェネリック）の開発は行わない方針。

### 【次期中期経営計画について】

現在社内で検討中だが、持続的な成長に向けて、以下の項目を基軸として考えている。

1. 革新的な医薬品（First-in-class / Best-in-class）の創出のためのイノベーション
2. 患者さん中心の医療の実現、具体的にはプレジジョンメディシンの推進
3. ロシュとの Win-Win 関係のさらなる強化
4. イノベーションを生み出す人財育成
5. ESG/CSV 経営への取り組み

### 【創薬モダリティについて】

独自の抗体技術を有するバイオ/高分子、キナーゼ阻害剤を中心とした低分子に加え、第3の柱として中分子にも10年前から取り組み、タフターゲットを狙っている。核酸医薬や遺伝子治療など他のモダリティについても注視しており、中外の強みを活かすことは考えているが、リソースも限られていることから投資の規模は限定的になる。中分子は、次期中計期間中に臨床入りを目指している。CPRでの抗体開発も順調で、既にAMY109がP1入りしたが、今年から来年にかけてもう一つP1入りする予定。なお、科学技術情報部では、新たなモダリティのみならず、AIやリアルワールドデータを活用するデータサイエンスも含め、医療に新たな価値を生み出す技術を注視し、当社とのシナジー効果を踏まえ、新たな創薬に必要な社外の技術の導入にも積極的に取り組んでいる。

### 【FMI 事業について】

がん領域におけるリーディングカンパニーとして、がんゲノム医療の実現と提供体制構築に  
取り組み、医療に貢献することは当社の重要な責務と考えている。また、ロシュは PHC2.0  
を推進しており、患者さん一人ひとりに対し最適な医療を提供することを目指している。既  
に米国では、ゲノムデータとリアルワールドデータの融合も進んでいる中、FMI の「網羅的  
遺伝子解析プロファイリング」の国内事業化および製品価値最大化に加え、更なる PHC の実  
現に向けて、中長期的な PHC およびバイオマーカー戦略を推進することで、自社の R&D 活  
動を更に充実させ、医薬品ビジネスの価値最大化を目指していきたい。

### 【ESG への取り組みについて】

社会的な価値の提供など、これまでも当社としてしっかり取り組んでいるが、社内外に向け  
たアピールが弱かった。次期中計では一つの柱として ESG を織り込みたい。Social (S) は、  
CSV の観点で、当社の事業活動そのものである。Environmental (E) はミッション達成の  
ための基盤であり、Governance (G) は企業ガバナンスと人財マネジメントを通して、持続  
的な成長に繋がると考えている。

### 【今後の投資について】

ロシュとのアライアンスによる当社のビジネスモデルとして、後期開発やグローバル販売な  
ど、大きな投資を抑えることができる。一方で、創薬をはじめ、CMC も含めた早期開発に重  
点的に投資し、将来に向けた創薬技術やプロジェクトの導入も積極的に検討していきたい。

以上